



公認会計士「研修出向制度」 体験者レポート

vol. 10 取材・文/南山武志 撮影/内海明啓

新日本有限責任監査法人が2010年にスタートさせた、一般事業会社への会計士「研修出向制度」。本制度を活用し、自己成長に励む公認会計士たちのリアル・レポートをお届けする。



資格取得を待つ 研修出向制度に応募

「監査法人ではどんな部署で仕事をされていたのですか？」

内橋 入所前は、IPOのサポートや、ベンチャー企業に関連する業務を希望していました。世の中に新しい価値を提供する事に会計士というスタンスでかかわりたいというのが、学生時代からの夢でしたから。ですが、配属されたのは国際部という、主に外資系企業の日本法人の監査を行うセクションで、大手外食チェーンなど小売業を主に担当しました。自分で英語力が足りないと思っていましたから、国際部での監査業務は非常に勉強になりました。監査の実施に当たっては、その会社の社員の方でも目にする事ができない書類を閲覧する場合も。あくまでも第三者的ですが、いろんな会社の意思決定のやり方などに触れることができ、そういう部分に特に興味深かったし、学ぶことが多い業務でした。

「事業会社に行こうと思いついた動機を教えてください。」

内橋 「会計士になりたい」というよりは、「会計士になって得られる経験・知識を基にビジネスのサポートをしたい」というのが、私の基本的なスタンスでした。実際に監査をしていても、「ビジネスを知らないのに、果たして

内橋 会計基準のリリースおよび発信社内会計制度の企画・立案などの業務を行っており、現在は約20名の体制で、連結グループとしてのIFRS導入プロジェクトのマネジメントオフィスとして機能しています。14年3月期からの適用に向けて、IFRSによる連結財務諸表作成は始まったばかりです。ちなみに私は、金融商品、連結範囲などを主に担当しています。

資格をベースに 自らを高める

「入社前の不安」はどのようにして解消したのでしょうか？」

内橋 そもそもIFRS自体、監査法人時代には専門書を読みかじった程度で、実務の経験はありませんでした。だから必死で勉強しましたが、実際やってみると意外に監査で得た会計知

識が通用するんです。監査に取り組むなかで、会計的なものの考え方が自然に身につけていたということに改めて気づかされました。つまり会計士としての監査経験は「武器」にもなる。過少評価しすぎることはないと思います。

「会計以外ではどうですか？」

内橋 三井物産というグローバル企業にきて、英語力の大事さも再認識しました。会計基準室には外国人スタッフもいますし、英語で行われるミーティングもあります。財務数値の報告パッケージの海外説明会のメンバーに自分が入っていたのはびっくりしました。

「監査法人では考えられない仕事内容ですね。」

内橋 監査法人では、あくまでも外からお頼みのみすればよく、そこから先はお任せする立場でした。でも今は自分から話を聞きに回り、必要な情報を集め、懇切丁寧に説明しなければなりません。よくよく考えると当たり前ののですが、そうしなければ現場は動かないわけです。また徐々にはありますが、三井物産という会社をとおして事業会社でのビジネスも見えてきました。監査法人時代とは違う脳みそも使わねばならず大変ですけど、大きなやりがいを感じています。

「ビジネスマンとしての今後の抱負を聞かせてください。」

内橋 出向して1年間、与えられた業

「来る球はすべて打つ」の スタンスで仕事に臨み、 自分の可能性を高めたい

三井物産株式会社 経理部 会計基準室

内橋 孝 ● 30歳



正しい判断ができてくるのか」という思いが、どんどん強くなりました。だったら、せっかかない制度があるのだから、企業に入って現場の仕事というものを経験してみようと、決断したわけです。

この制度自体は2010年からスタートしたのを知っていましたが、出向は公認会計士登録が条件でした。私はその時点では登録のための試験を受験した段階でしたので、1年いわば「浪

務、求められる仕事には全力で取り組んできたつもりです。これからもその姿勢が変わるところはありませんが、さらに「高み」を目指す必要があると思っています。IFRS導入プロジェクトが一定の段階に到達すれば、IFRSというモノサシをいかにグループ経営に役立てるかという段階になります。私自身、今までと違う役割を与えられた時にきちんとそれに応え、特に現場を動かせる人材になって貢献したい。それが目標です。

「後続く会計士へのメッセージをお願いします。」

内橋 出向制度に関していえば、「どの会社に行けるのかわからない」というところに引っかけたって、応募をためらっている人も多いと思います。大きな不安を覚えながら、結果的に三井物

人へ、昨年応募しました。

「三井物産に出向が決まった時の印象はどうでしたか？」

内橋 どの会社に出向するのは神のみぞ知るだったので、聞いた時にはまさか自分が総合会社に行くことになるとは、と正直驚きました。監査法人ではインチャージ経験を始めた段階でしたから、自分で手を挙げておきながら、出向前はものすごく不安になりました。

「配属された会計基準室とは？」

産という自由闊達で多様性を受け入れる社風の企業に出向となった私は、幸運だったのかもしれない。ただ今から考えると、仮に違う会社に入っても、いい経験ができただろうと思うのです。ビジネスの現場を知るのには、会計士の仕事にとっていろんな意味でプラスになるはず。少しでも興味があるのなら、ぜひ挑戦すべきです。

出向受け入れ企業の声

事業会社の本質を理解し、 優秀な会計士になってほしい



三井物産株式会社
執行役員 CFO補佐兼経理部長
松原 圭吾

当社経理部では、4年ほど前から公認会計士の出向受け入れを始めた。現在は4つの監査法人などから7名の会計士に来てもらっている。会計事務の高度化、複雑化に、社内の人材育成のみで対応するのは難しい。外部の専門家に入ってもらい、互いに切磋琢磨していこうと考えたのが、受け入れのきっかけだ。

この「出向制度」では、昨年、内橋君を含め2名を受け入れた。IFRS導入プロジェクトに参加してもらうためだ。しかし実は、彼はIFRSの専門家ではなかった。それが今では、海外にまで出かけて堂々と基準を説明するほどの、いっぴしのプロである。資格による「免許」力とは、そういうものなのだと改めて感じる。制度が継続されるのであるならば、今後も積極的に活用したい。企業の現場を知る会計士が監査の現場に増えることも、非常に意義深いことだと考えている。

Takashi Uchihashi Profile
1982年3月30日 兵庫県西脇市生まれ
2005年3月 早稲田大学法学部卒業
2006年11月 公認会計士試験合格
2006年12月 新日本有限責任監査法人入所
2011年8月 三井物産株式会社へ出向
家族構成=妻、息子1人